

C-30 シルエット写真から得られた人体寸法と各種作図法
東播学園女短大 ○有馬澄子 岡村千鶴子

目的 シルエット写真を用いて、人体形態を把握し、それより得られた観察結果により、既存の被服構成上の考え方および手法を検討することを目的とした。

方法 資料として女子大生(18才~28才)193名のシルエット写真を用い写真計測並びに身体計測を行った。それより得られたデータをを用いて、胴部およびスカート、スラックス原型との関連ある項目について、比較検討した。

結果 被服構成上の従来の各種作図と本研究の結果を比較すると

1. 上半身の前丈、後丈を比較すると、前丈の長い人55.47%、後丈の長い人21.90%、前後同寸の人22.63%であつて、作図の前丈は後丈+(0.5~3)cmであつた。
2. 下半身の脇丈 94.97 cm > 前丈 94.18 cm > 後丈 94.04 cm と、作図の脇丈 > 前丈 > 後丈という考えとはよく一致する。
3. B.P.の位置については、作図の寸法(23.0 cm ~ 25.5 cm)は、写真計測の数値(平均値23.31 cm, 標準偏差1.77 cm)とは異なるものもある。
4. スカートの作図のダーツの長さは、前5~10 cm, 後10~19 cmであり、写真で一番高いところの位置は、前8 cm, 後17 cmであつた。
5. 作図では、スラックスのわたり寸法を腰囲から割り出すものが多いが、計測値においても腰囲と股部矢状径に関係がみられ(相関係数0.566)、腰囲に対する股部矢状径の割合は $\frac{27}{100}$ でばらつきも少ない。